

様式第3号(第7条関係)

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 令和4年度第1回水戸市協働推進委員会
- 2 開催日時 令和4年5月27日(金) 午後1時30分から午後2時35分まで
- 3 開催場所 水戸市役所4階 中会議室1～3
- 4 出席した者の氏名
- (1) 委員 金本 節子, 大野 覚, 谷萩 美智子, 大竹 隆志, 鹿倉 よし江,
山辺 太, 羽石 英司, 大谷 一宏
- (2) 執行機関 【市民生活課】参事兼課長 白石 嘉亮,
副参事兼課長補佐 入野 高司,
協働係長 浅川 勝彦, 主事 矢部 明日香
【介護保険課】課長 高橋 慎一, 副参事兼課長補佐 鯉渕 紀子,
管理係長 川崎 政聡
【ふるさと農業センター】所長 長谷川 祐紀
【こども発達支援センター】所長 太田 礼子
【総合教育研究所】副参事兼課長補佐 大谷 淳
【公園緑地課】千波湖管理室長 高根 尚久,
千波湖係長 秋葉 健介
- (3) その他 特定非営利活動法人ちいきの学校
森っこ
じゃあまいいかねっと
NPO法人Happyリレーいろいろ
- 5 議題及び公開・非公開の別 水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」令和3年度
事業報告会(公開)
全体審議(非公開)
- 6 非公開の理由 (全体審議)
① 公にすることにより, 当該団体の権利, 競争上の地位その他
正当な利益を害するおそれがあるため。

- ② 公にすることにより，率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ又は不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれがあるため。

7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 2人

8 会議資料の名称 令和3年度実施事業の概要

9 発言の内容

【事業報告会】

事務局	(開会の挨拶，進行についての説明)
委員長	ただ今から，水戸市協働事業提案制度「わくわくプロジェクト」の令和3年度実施事業の事業報告会を始める。令和3年度に実施した4事業について，協働事業者と市担当課から，事業の概要，協働による効果，成果などについて発表していただく。
協働事業者 介護保険課	〔発表：介護助手養成 ちいすけ水戸〕
委員	自身も先日，研修に参加し，修了書をいただいたところである。非常に素晴らしい内容であった。また，実績として，就労者が9名という点も大変見事である。今後，アクティブシニアの人材確保，人材活用は重要になってくると感じている。今後の展望を伺いたい。
協働事業者	講座に御参加いただき，感謝する。 今後の展望について，アクティブシニアの活躍の場はさらに必要となってくると感じている。その中で，生きがいくくりや健康づくりのために，本事業をツールとして活用いただき，地域の中で活躍できる場を提供していきたい。また，人材確保という課題を解決するために，団体としてもサポートしていきたい。
委員	貴団体の事業は介護助手養成を目的としているが，保育士等の助手も必要であると感じている。近年，認定こども園等も増えている中で，現場でも保育士が不足している。今後，介護のみではなく，保育の側面にも目を向けていただきたい。講座内容は，現在の形で進めることは可能であると考えている。是非，検討いただきたい。
委員	各講座後にアンケート調査を実施しており，質問内容はデジタルに関する項目が多いと感じる。介護助手として就労するうえで，デジタルに関する環境や知識を必要とするか御回答いただきたい。

協働事業者	介護助手となるうえで、必須では決していない。別事業において、講座を行っていることもあり、シニア世代のニーズを捉えたく調査を行った。
委員	就労後、周辺業務を行ううえで、デジタルに関する専門的知識は必要ないという認識で間違いないか。
協働事業者	講座においても、受講者の得意なことを伺い、事業所とのすり合わせが大切であると伝えている。
委員	介護助手となった方が9名いることは大変素晴らしい。しかし、受講者のアンケートの中で、介護助手として働きたいと回答している方が53%とあり、受講者数から見ると、約50名程度は介護助手として働きたいと考えていると推定する。9名に留まっている理由や背景を伺いたい。
協働事業者	働きたいという回答の中には「今後、働きたい」という方もいるためだと推測する。また、働きたいという思いの一方で、就労するためには一歩踏み出す勇気が必要だと考える。研修中の映像等において、受講者の背中を押すような機会を設け、就労につなげていきたい。
協働事業者 ふるさと農業センター	〔発表：親子で楽しむ森あそび 森っこ〕
委員	私自身も、本活動に1度参加したことがあるが、団体の作り出すゆったりとした雰囲気、参加する幼い子どもたちに安心感や心地よさをもたらしていると感じた。今後の活動において、資金面で苦勞されることもあるかと思うが、活動を続けてほしい。 本活動への質問であるが、コロナ禍において活動を行うことが可能であった理由は何であるか。また、幼稚園等への広報活動は行っていたか御回答いただきたい。
協働事業者	活動場所が森の中であることが、コロナ禍においても活動を行うことができた大きな理由である。十分に距離をとりながらも、参加者である親子は密に過ごすことができるよう事業を実施してきたところである。また、幼稚園等への広報であるが、特段行ってはいない。チラシ等は、主に子育て支援・多世代交流センターや図書館等に配布している。
委員	水戸の地域資源を利用し、子どもたちに自然の大切さを伝えるとともに、森と人をつなぐデザインを実践しているところが素晴らしい。今後はどのようにして、森と人をつないでいくのか御教示いただきたい。 また、収支決算において、木工体験講師とあるが、どのようなワークショップであったのか教えていただきたい。
協働事業者	森と人をつなぐデザインについて、子どもたちに自然の豊かさや、植物の多様性を伝えるために現在勉強中である。今後、発展させて、森あそびグッズにつなげていきたい。現在行っているの

	<p>は、森の中で活動をする事自体が、森と人をつなぐきっかけであると考えている。森っこの活動は単なる子育て支援ではなく、水戸の自然資源を活用した他にない子育て支援活動であるため、繰り返し本活動に多くの親子が御参加いただき、自然豊かな水戸を好きになっていただきたい。</p> <p>次に、木工体験については、切断した間伐材を利用し、子どもたちが紙やすりで形を整え、鉛筆で下書きしたものを大人が焼きペンで焼き、名札代わりにするキーホルダーを作る内容となっている。このキーホルダーを次回以降の活動参加時に着用していただくことにしている。また、12月にはクリスマス用の装飾品製作を行った。</p>
<p>協働事業者 こども発達支援センター 総合教育研究所</p>	<p>〔発表：LD、HSCの子どもが育つ環境を整える事業〕</p>
<p>委員</p>	<p>決算について確認したい。当初の予算計画と比較すると、消耗品費が約20万円と増えているが、予想外の支出があったのか。</p>
<p>協働事業者</p>	<p>当初の消耗品費では、教材費を予定していたが、講師と打合せしていく中で、増額の必要が出てきたため、この支出額となっている。この変更については、提案制度の担当課である市民生活課と、協働担当課である総合教育研究所及びこども発達支援センターと合意の上での変更である。</p>
<p>委員</p>	<p>今の説明であると、教材費ということは印刷製本費ではないのか。</p>
<p>協働事業者</p>	<p>教材自体が印刷してある所謂テキストであったため、消耗品費とした。</p>
<p>委員</p>	<p>計画当初は教材として新たに印刷するイメージで、印刷製本費として計上していたが、実際には消耗品費としたという認識でよろしいか。</p>
<p>協働事業者</p>	<p>よろしい。</p>
<p>委員</p>	<p>さらにもう1点、評価シートについて、協働担当課である総合教育研究所の負担が大きかったと推察するが、協議していく中で、当初見えなかった以上のものが、事業を進めるにつれて新たに見えてきたということか。</p>
<p>総合教育研究所</p>	<p>昨年度、初めて担当したこともあり、協働事業への理解不足で、想像以上に時間と労力がかかったということの評価シートに記載した。</p>
<p>委員</p>	<p>実施した情報交換会に関して、参加者が1名の日があったが、当初予定の参加者が1名であったということか。情報交換会というので、学習に不安がある子をもつ親が多く集まるのかと想像し</p>

	<p>ていた。</p>
協働事業者	<p>平日に開催したため参加者が少なかった。日程調整のミスはあったのではないかと感じている。</p>
委員	<p>休日ではないから、参加者が少なかったという認識で間違いはないか。参加者が少なく、残念である。</p>
協働事業者	<p>この結果を受け、本年度以降は基本的に土曜日または日曜日の開催を検討している。</p>
委員	<p>現在の質問に補足して、ICT活動動画講座の募集人数と実際の受講者はどれくらいであったのか御教示いただきたい。</p>
協働事業者	<p>ICT活動動画講座は、動画のURLを配布し、受講者には自宅にてご覧いただいた。視聴可能期間の2月11日から27日までの受講者は71名である。</p>
委員	<p>受講者は多かったように思う。講師の謝金はいくらであったか伺いたい。</p>
協働事業者	<p>2万円であった。</p>
委員	<p>今後の課題点や改善点をお聞きしたい。</p>
協働事業者	<p>2年間の協働事業を通して、LD、HSCの子どもへの認識は以前と比べ広まったと思うが、情報が行き届いていないのも事実である。継続して情報発信や、届きやすい仕組みを盛り込みながらの情報発信に努めたい。また、引き続き、情報交換会を実施予定なので、参加者には情報を伝えていきたい。</p>
委員	<p>今後の取組みについて、協働担当課であるこども発達支援センターと総合教育研究所とは、今後も連携していけるという報告内容であったかと思うが、評価シートを見ると協働事業を実施した2年間で不協和音があったように感じる。このことについて、解決できた前提でいうと、今後は協力関係を築き、協働を行うことが可能であるという判断のもと、通常3年継続可能な協働事業提案制度に3年目の提案をしなかったということによろしいか。</p>
協働事業者	<p>評価シートを見ると、協力関係が築けていないのではないかと推察する方もいるが、私自身は協働担当課と情報共有をしながら事業を実施できた認識である。しかし、それ以上に抱えている課題が大きかったため、評価の乖離があったのではないかと感じる。</p>
委員	<p>評価シートに率直に記載していただくことは大変好ましい。順調であるという協働事業者の報告に対し、協働担当課から指摘があることは非常にありがたいことである。記載されている有用な指摘については、解決策を検討する必要があると考える。団体として、協働担当課へ意見を求めることは可能か。</p>
協働事業者	<p>是非、願います。</p>

協働事業者 公園緑地課	〔発表：公園にハートいっぱいの種を蒔こう〕
委員	提案書の決算額のうち、自主事業収入が690万円と突出している。財源はどこにあるのか御教示いただきたい。
協働事業者	自団体は様々な事業展開をしており、その合計の収入である。協働事業以外にも、親子カフェ、子ども食堂も実施している。少年の森での協働事業単独での収入は100万円程度である。
委員	貴団体の活動があって、少年の森の景観が保たれていると感じている。公園から地域をつなぐ多世代交流のためという事業目的のもと、今後の夢を伺いたい。
協働事業者	自団体は東野町から活動を開始したが、集客が厳しかった。そこで、集客のある千波湖に魅力を感じ、協働事業として提案したところである。協働事業を通して、多くのつながりを創出できた。このつながりをもって、再度東野町に戻りたい。
委員	現在、貴団体はスケートパーク事業も実施していると伺っている。若い世代の育成のため、頑張ってもらいたい。